

緑丘

全国版

(通巻)No. 30号
(37年度 6号)

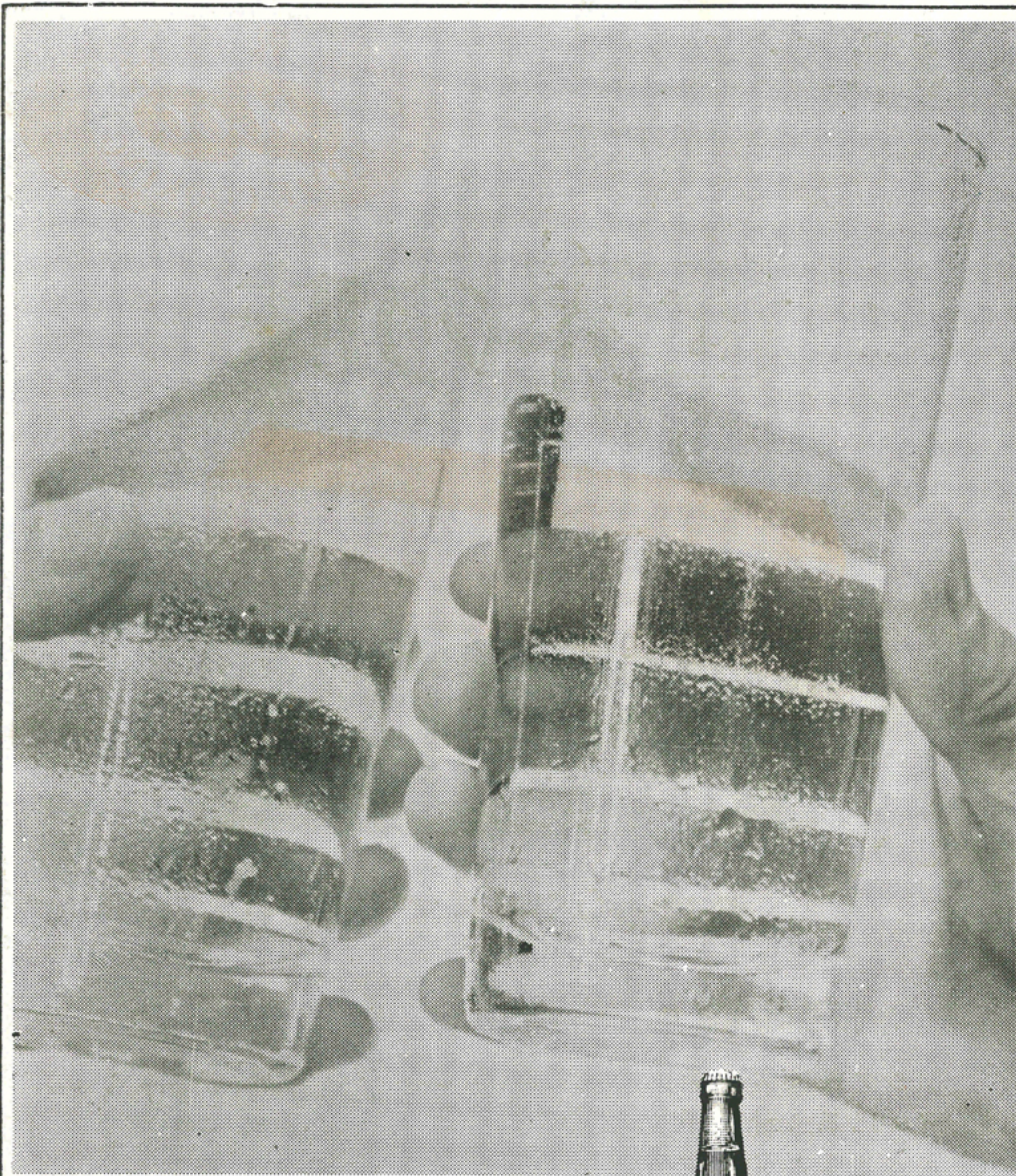
大阪市北区曾根崎新地
日本電気機器株式会社内
緑丘大阪支部
編集部
大阪市東区道修町三の一
塩野義製菓株式会社内
養目英三

古本屋の雑書類の中からこんな地図を発見しました。
林子平の筆になる墨書きのこの地図は五部作の一つ。
地図を読むことの面白さを味っていただきたい。虫めがねで。
南部領、津軽領から北へ。

ジス・イズ・ホツカイドウ

(養目蔵)

東都 日本橋北室町三丁目
仙臺 須原屋市兵衛梓
林子平図



世界のビール三大名産地

München ←→ 札幌 ←→ Milwaukee
(ミュンヘン) (サッポロ) (ミルウォーキー)



本場の味
サッポロ
日本麦酒株式会社

(姉妹品) リボンシトロン・リボンジュース・リボンコーラ

三十八年度「緑丘」

申込受付開始!!

印刷部数決定のために

いますぐ御申込み下さい

この号をもって三十七年度の「緑丘」を終ります。
昭和三十三年創刊の「緑丘」は今回で丁度三十号になりました。これから六年目に入ります。

三十七年度の特集は「大野純一先生退官記念号」「小樽特集号」と二冊を発刊し同窓諸兄から喜ばれましたが三十八年度も皆様の御協力です。

派な特集を計画したいものです。振替用紙を同封しましたので何卒御利用下さい。お金の振込手数料は編集部負担となっております。

印刷部数が定まる

あなたの御申込みがこの「緑丘」の印刷部数を決定しますので今すぐ御申込み下さいますようお願いいたします。



37年度既刊「緑丘」

お金の都合で途中で御申込をする方がございますが、その時バックナンバーを在庫しておりますと都合よく御送り申し上げますが、在庫のない場合は編集部では非常に困ります。この機会に御申込下さいますようお願いいたします。

あなたは緑丘人

「小樽出」といつてる同窓生の中にも残念ながらピンからキリまであります。自分の履歴書に「小樽高商卒、小樽商大卒」と書いて入社して置きなから母校の事などてんと知らん顔の半兵衛をきめ込んでるいわゆる緑丘人の多いのには唯々あきれま

す。次のような方にはたとえ見本でも送る必要がないと思っておりますので、「緑丘」の送附を中止しております。

- 一、関心のない緑丘人
- 一、会合の度に往復ハガキで案内しても返信のない緑丘人。
- 一、見本を送っても五〇〇円がないためか送金の意志のない緑丘人。編集部が切手代を立替えて送るのですからウンなりスンなり言ってくれてもよいと思えます。
- 一、自分の移転先を学校へも通知しない緑丘人。
- 一、学校の名簿から送附先を拾い、お送りしているのに発送の割は住所不明、転居先不明で返送されて来ます。
- 一、こんな人は発送先名簿からはづしてしまいます。あなただけがほんとの選ばれた緑丘人です。

初めて見る人のために

「こんな立派な「緑丘」が出ておったのか」と初めて手にする方もあります。

編集部の手が廻りかねて一度もお送りしなかつた方が四千人ほどあります。こんな声をお聞きの方はどうぞ緑丘編集部へ住所、氏名、年次をお知らせ下さい。

三十八年度分を納入済の方

左の方は三十七年度中に三十八年度分をいただいておりますので振込をしませんように。

- (ア) 相原正美
- (イ) 石興平、石黒政夫
- (ウ) 上田藤一郎
- (エ) 江川裕一郎
- (オ) 岡本喜智子、大久保鹿式、小貫武、大平善悟、大野鉄次、大塚守之
- (カ) 笠木申一、亀井尚一
- (キ) 木村吉兵衛
- (ク) 越崎清二、近藤一郎
- (サ) 坂本芳弘、酒井康正
- (ス) 杉中弘吾、須永誠一
- (タ) 高浜年尾、高木久新、武内武一、田中滝一、高橋勇
- (ト) 戸田一彦
- (ナ) 中島与市、鳴滝仁雄
- (ニ) 西山正夫
- (ホ) 野口正二郎
- (ハ) 浜浦英祐
- (ヘ) 本間毅郎
- (マ) 松原治郎
- (ヤ) 八木康之介、山中晴雄、山崎博、山口保榮
- (ミ) 三谷晃一

ことをみんなといっしょに考えた。いっしょに生きるとはどういうことか。科学の進歩は生物化学、生物物理学を生み、原子の研究は生命の神秘のベールをはぎとろうとしている。しかし生命がいくら学問的に究明されても、生命を人間が作ることはできない。

いま、ここにあるわれわれの生命は、偶然あるわけではない。過去何億年前から現在に続き、そして未来へ無限の広がりを持った人類の輪のひとつなのだ。単なる両親の創造という点ではなく、人類を線とした点であることを考えてほしい。

何億年の過去の生命の集積が、現在の文明を築き、これからの発展も人間のいのちが創造する、すなわち、あなたの生命がこれからさき人類発展の業績の背負っているのだ。過去の先人の業績を背負っているとしても、きたるべき社会発展にたいしての責任を持っている。気まぐれな生命ではなく、ゆう久無辺の貴重な生命である。一回かぎりのいのちではなく子孫を通じ、世界のためにとって偉大なことをすべき使命がある。この大きな義務を考えないところに生命軽視が生まれてくる。

いのちとは強いようで非常に弱い。毎日、新聞をにぎわす事故が、そのはかなさを物語っている。だがこのもろさが、今日の人類の繁栄を築いたと思う。強い動物が死滅した中で、弱い人類が生きてきたことは、このもろさを守るために人間は考え、創造した。そして、それが人間の本質なのだ。考えること、作ること——生命がそれを動かした。

また人間の生命は孤立してない。かよわい生命の人間がここまで高い文化を築いたのは、協力があつたからこそだ。おたがいの住んでいる社会、世界の職責を、おたがいの力で、それぞれの責任で果たしたからだ。そこには生命の意義がある。人類の前途のために、みんなが努力して、よりよい社会を作る。その使命をもつものが生命だ。生きていくかぎり、あなたは生命の持つ使命を果たす義務を持っているわけだ。そのように努力することにより、住んでいる世界はよりよいものになるだろう。

過去のすばらしい発明もすべてそうだったように、よりよい環境を作ろうとする努力が今日の文明を築いた。だから、もっと生命を大切なものに考えよう。自分のものだからどうでもよいというのではなく、もろく一代限りという考えなら人類はとうに消滅しているだろう。決して生命は孤立無援ではない。

最近、生命についての深い思い、反省が忘れられがちだ。学校の教育でも、家庭でも、友だち同士でも、生命の根源より、それから起る現象にとらわれている。現代社会は複雑だ。現象的な問題が多い。とにかくその流れにげんわくされている。

戦後日本人は解放された。だがこの解放の意味を、われわれは制度的なものにばかりにとらわれ、生命の解放について、もう一度振り返ることを怠った。ルネッサンスは、ヨーロッパの人間解放だった。これが現代の欧州人の精神制度の基礎を築くした。ヨー

ロッパ人は生命、魂の起源について戦いを起こすほどギリギリまで考え論争した。宗教改革は魂の共通の基礎を争う戦いだった。だが日本では戦いのあと生命の基本、人間そのものについての真剣な解決をしなかつた。

たしかに制度は大切であろう。しかし制度は、国、地方、環境で変わる。だが生命は人類に共通する。いのちについて考えれば、遠大な使命を持つ生命をおたがいに大事にしあわねばならぬことに思いいたるだろう。

他人の生命を望んで、わがいのちを大切にするとともに民主主義が生まれる。それがなければ、どんなによい民主制度も魂のいらぬ仏だ。生命尊重あってこそその民主主義——生命の自覚が個人の自覚になり、そこに初めて共同体が確立され、おたがいが理解しあつた社会を作ることができる。ヨーロッパの民主主義の確立は、まず生命の確立ができたからだ。外国から制度を移植した日本では、とかく結果の現象だけを受け入れる。だからドタン場で「われ」を忘れる。

あなたたちの生命はゆたかな可能性を内蔵している。やろうと思えばなんでもできる。その自覚が未来に明るい偉大な足跡を残す。いのちを大切にしよう。生命は躍動する。山へ行くもよしスキーもよし。だが、その時に自分のいのちについてもう一度考えてほしい。さあ、みんな私と唱和しよう『いのちを大切に……』

(北海タイムスから)

加茂儀一学長

生命を大切にしよう

「成人の日(1月15日)に呼びかけ、小樽市役所議事堂で

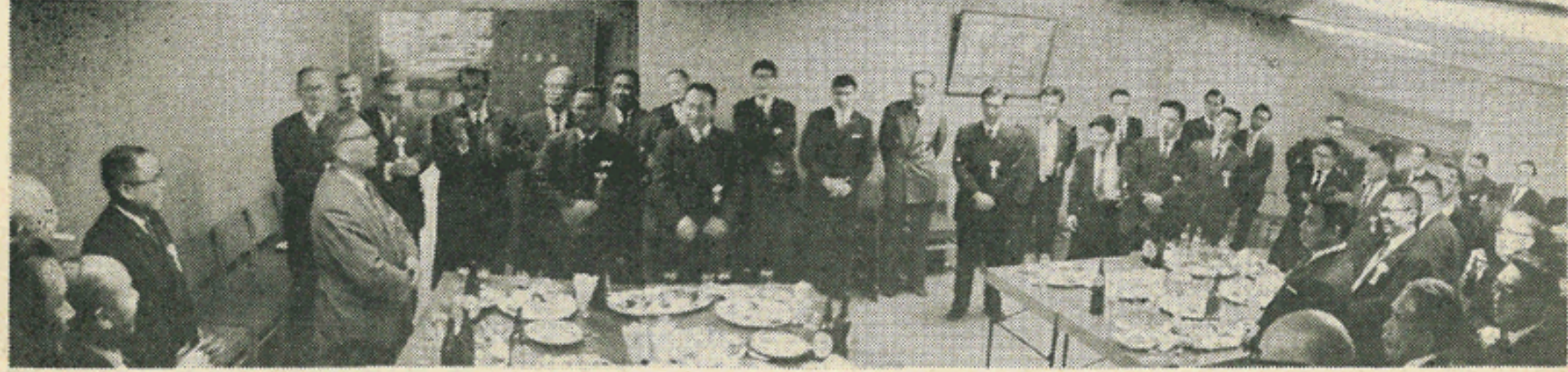
「いのちはあなただけのものではない」とその尊厳を説きこの運動は北海道全道に拡がった

講演要旨

成人おめでとう。きょうは若い人たちに、いのちのことを話し、その



腰をおろした大正組



元大阪支部長大久保鹿式氏の挨拶

×コップを捧げて目と目で乾杯する風景、大阪へ転動してきたばかりでと挨拶廻りする先輩、後輩。一時間もしないうちにテーブルの人々は交流をはじめた。新年にふさわしいなごやかなパーティーである。筆者も大阪へ来て三年目であるが年々会員が増えて賑かさをます大阪支部の盛況には天野支部長以下幹部連中の努力の程がうかがわれた。われわれ若ものがこのパーティーに来てよかったことは先輩だけの集りではなく若いものにも対とうに美人と話す機会を与えてくれたことであり、新春早々からビールをたらふく飲ませてくれたことと帰りにはお土産までもいただいたことである。大正組は腰が弱いのかもう椅子に腰をおろしはじめた。

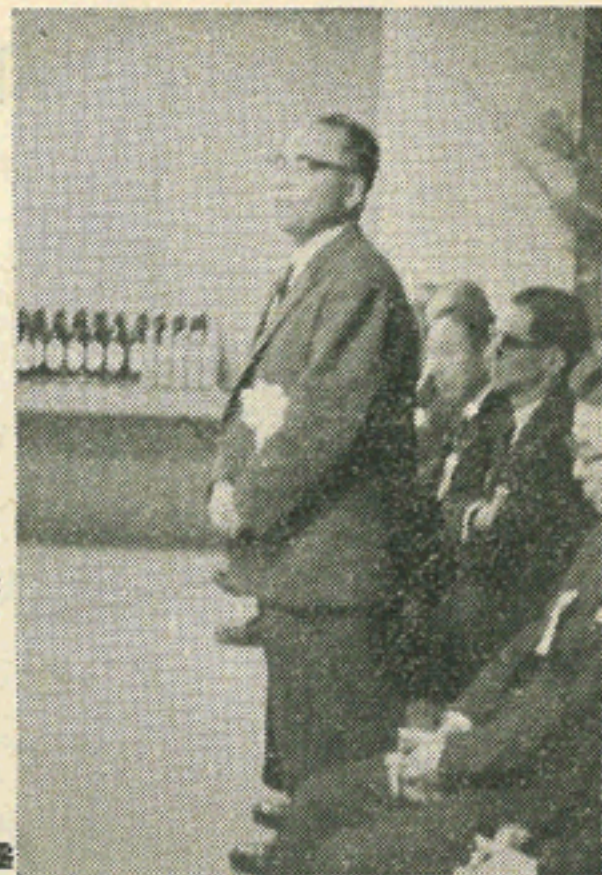
極楽会の代表として正調博多節を丁上げる。次いで元大阪支部長大久保鹿式氏(大一二)「尼ヶ崎市議員」に改選立候補の演説を、正しい清い政治について一席お願いした。各年次の代表による年頭所感や故郷の民謡、地獄会前年度グランプリ賞に輝く山内君のカクシ芸など披露され、何時終るとも知れず。九時までの約三時間このなごやかな新年パーティーは続き、行進歌、校歌と椎名先生の乾杯、支部長の方才で幕を閉じた。帰りは受付で、世界の味(ボルシチ、ミートソース、ビーフシチュー、ビーフカレー、コンンスープ、いちごチャム、ママレード)をいただいでさようなら。(岡部記)

'63 形式かえて成功した

大阪支部 新年パーティー

1月10日 サッポロビール会議室で

天野大阪支部長の挨拶



昭和三十八年緑丘会大阪支部新年互礼パーティーは例年の型を破って着席形式をやめフリーストウキング型を採用、名刺交換会にふさわしいパーティーとなった。一月十日午後六時、関西の緑丘人は大阪支部のみならず京都からも神戸からも馳せ参じ、サッポロビール会議室は忽ちにして満員となる。中村賢二郎先生、小林先生、椎名先生の顔も見える。定刻六時半、若山副幹事長の司会よろしく、墓目幹事長の開会の辞によりパーティーがはじまった。次いで大阪支部長天野雅司氏から新年祝辞と今年度の抱負を語って挨拶に代える。美人十数名の登場でビールはつがれ、中村賢二郎元教授の乾杯にはじまった懇親会は銀鱗躍る緑丘歌のテープレコーダーの流れる中にテーブルを囲んで懇談がはじまった。おめでとうと挨拶する風景、肩越しに×

名司会者拍手を以て場内のざわめきを制し、静まり返った所を幹事長椅子に上り、次の二つを御披露した。一は苦米地元校長先生御夫妻が金婚の祝を迎えられたこと。一は神戸から水垣敏正エムシー社長(昭五)が見え、大阪支部のために世界各国のカンツメをお土産に差し上げたいと。この披露が終るや、すかさず若山名司会者、唯今から苦米地先生のために御寄附をお願いします。第一のテーブル第二のテーブル、募金の責任者を指名します。この帽子の中はどうぞ。誠にその金集めの手際のよいこと丸嘉株式会社社長の経理担当重役らしい素早さだ。笑いの中にまたパーティーは続く。後援会関西事務局長宮地邦介氏を指名して募金に代わるのどのよさを披露せよと迫ればすすめられるままに



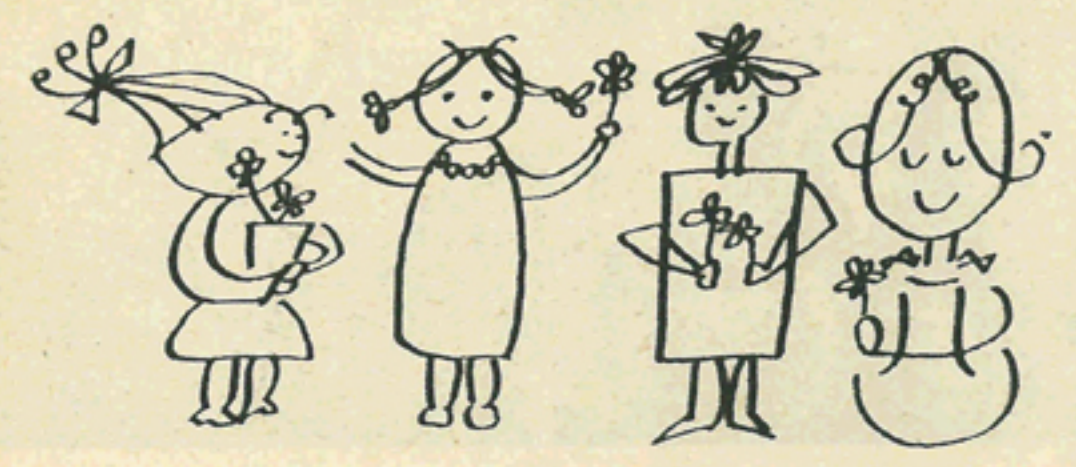
なごやかな会場風景



教育雑感

小樽商大教授

古瀬大六



★教育における自由

私には四人の子供がある。ときどき、朝学校に行くのが嫌だといって親をやきもきさせる。私だけでなく、多くの人々が同じような悩みをもっておられるにちがいない。これにはいろいろの原因が考えられる。その一つは、子供の能力と教師の教え方との間の食い違い、である。

教育の理想は、一人一人の子供の能力と性格に応じた教え方をすることではなくてはならない。知能指数六〇の子供と一八〇の子供とを一把一からげに教えることは、どの子供にとっても不幸な結果をもたらす。ある者は劣等感に苦しみ、ある者は授業に興味を失ってしまう。では、どうしたらよいか。

答えは簡単である。何も、子供一人に教師一人つける必要はない。子供たちをその能力に応じていくつか

のグループに分けて教育しさえすれば十分である。大正の末から昭和の初めにかけて、私は東京の池袋に住み、駅前の豊島師範附属小学校に通っていた。その通学の途中に、僅か二百坪くらいの「児童の村小学校」という、一風変わった学校の前を毎日通るのを常とした。生徒は恐らく一年から六年まであわせて三、四〇人位ではなかったかとおもう。この学校では、完全な個人教育が行なわれていた。

そこでは、何年生は何を勉強するかという強制的な教育計画は全く存在しない。教師は一人一人の子供の進み方に応じて、それぞれ最も適当とおもわれる速度で学習を進める。四年生で六年の教科書を使うものもある。当時は、小学校の五年生でも中学校の受験資格が認められていたから、五年で小学校を終えるものもあった。中学校も四年終了で大学予科に入れたので、学生の能力によって、大学卒業までの年数を二年節約することができた。

★道徳教育について

世上一般に行なわれている論議の中には、われわれ常識人にとって、全く理解に苦しむものが少なくない。その最たるものが、道徳教育論である。戦前のような軍国主義的道徳教育が戦後において一挙に撤廃されたのは、当然といってよい。しかし、われわれ人間は、道徳的判断なしには、一日も生存し続けることはできない。天皇絶対の道徳に代る、新しい道徳を発見することによって、この戦後の空白を埋め、人々の日々の生活によりどころを与える、という努力が、是非とも必要であった。人々、特に教育者は、そのような真面目な努力を払ってきたであろうか。もしも、そのような真面目な努力がなされてきたならば、例の修身科(道徳科)復活論など、生れてくるはずはなかったのである。

道徳の真の根源は、絶対的な支配

者への盲目的服従にあるのではなく、われわれみずからの構成する一つの協同体としての社会の中で、互いに助けあい、協力しあって、一人一人の幸福を高めていくためには、どのように行動したらよいか、という反省の上に立つものでなくてはならない。これが、戦後の道徳教育の基本的方針であったと思う。その故にこそ、道徳を抽象的・命令的な徳目としてでなく、社会科学全般の教育を通じて生徒に体得させる、という、正しい教育方針がうち立てられたのである。しかし、残念なことに、教師自身が、このような民主主義的道徳観を身につけることができず、彼等が社会に送り出したものは、自己の利益のみを強く主張し、他人の幸福を踏みにして恥じることもない、非民主主義的、アナキスト的人間でしかなかった。

戦前の道徳教育を復活させることによつて、この悲しむべき現実を救わなければならない、という強い主張が、昔をなつかしむ頭のはげた政治家や、そのお先棒をかつぐ一部官僚によつて取り上げられ、それが、一般社会人、殊に主婦たち、の素朴な要求と結びつくことによつて、強力な社会的世論となって盛り上げてきたのは、当然の結果といつてよいであろう。このような戦前の修身への逆コースを、そのまま見過ごしてよいものであろうか。戦後の社会科学による道徳教育の失敗を失敗として認めると同時に、その反動として現在の教育が誤つた道を辿るようなこととを与えるのが、われわれの任務で

なくてはならない。国家主義的道徳教育も、それ自身が不道徳であるというのではない。それは、複雑な社会のからくりに対する理解の必要を一般社会人から取り去つて、一人一人はただ一人の支配者に服従するという単純な価値判断能力をもちさえすれば、社会全体としてのまとまりを確保することができる、という利点をもっている。しかし、それは同時に、一人一人の国民の自由な判断力を抑えつけることによつて、より良き社会への発展力をも、同時に抑えつけてしまふ。

われわれが、物質的にも精神的にもより良き社会を望むならば、この複雑な社会の仕組みを科学的に分析し、個人の行動が社会の福祉と如何に緊密にむすびついているかを知的に理解することを通じて、自ら道徳を創り上げ、それを日々新しい時代の要求に流動的に適合させて行くべきである。これには、然しながら高度の知性が必要とし、一人一人の国民の高い教養を前提とする。どうか、教育関係者諸氏、殊に小学校の先生方が、社会科学を通じて道徳教育の真の意義を認識し、自己の教え方の誤りを深く反省して、それを再び正しい軌道の上のせられるように切に希望する。また、お父さん、お母さん方は、子供の行儀の悪いのは修身科がないからだ、というような単純で誤つた言動にのせられるないように、注意して頂きたい。必要なのは、「修身科」ではなく、「もつと社会科学」であることを忘れな

見透しとコントロール

伊藤 森右衛門 (母校助教授)

欧米の学者は、学問は未来のためにあると考えている。したがって、思い切つた予測や展望を行なうのである。これにひきかえて、我国の学者は、どちらかといえば、Looking backwards である。下手に予測や展望をしても、ビジョンか基礎的な枠のなかで物を言っている。「資本主義の将来」などというテーマが好まれる所以が如実に物語っている。もつと勇敢に予測や展望を長期的にも短期的にもやったらいいのではないか。

予測や展望を行なうにしても二つの問題がある。ひとつは現状の把握の問題と、もうひとつは予測のための諸条件の問題とである。現状をどう把握するかを議論しているうちに議論倒れになる。沢山のモデルのうちどのモデルがよいかというのではなくて、特定のモデルに捕虜になつている学者が多い。大西教授の「囚われたる経済学」の書名の如く。

同時に、予測する場合の条件設定が現実離れも甚しいということである。条件は統制可能な範囲になければならない。目標へ到達し得るための条件を統制できなければ「夢ものがたり」にすぎないからである。条件の設定は、政策への提言であり、勧告である。理論と歴史と政策を三分する学問論があつて、後二者と結びつかなくとも理論は理論だとする

学問が多すぎる。我田引水のように申訳ないが、経営管理學は、「見透しとコントロール」を中心とする学問である。経営者という職業は、危険を冒す職業ではない。「見透しとコントロール」に努力する職業である。経営管理學は、「見透しとコントロール」についていわゆるプロ級の経営者を教育訓練するためのものであつて、「一か八か」という賭ごとの度胸を養うのではない。科学的手法も駆使しなければならぬし、自らの経験や知識を整理し信念に高める努力も必要となる。

孫子とか作戦要務令で、「経営」は出来ない。自らの経験や知識を信念に高められない人物には必要な栄養剤である。読んでうなずいてい

るだけでは何もならない。精々、祝辞挨拶の名句集の類いといつてよい。しかし、読むことだけは無駄でない。有益であるがusefulであるかどうかは別の問題である。

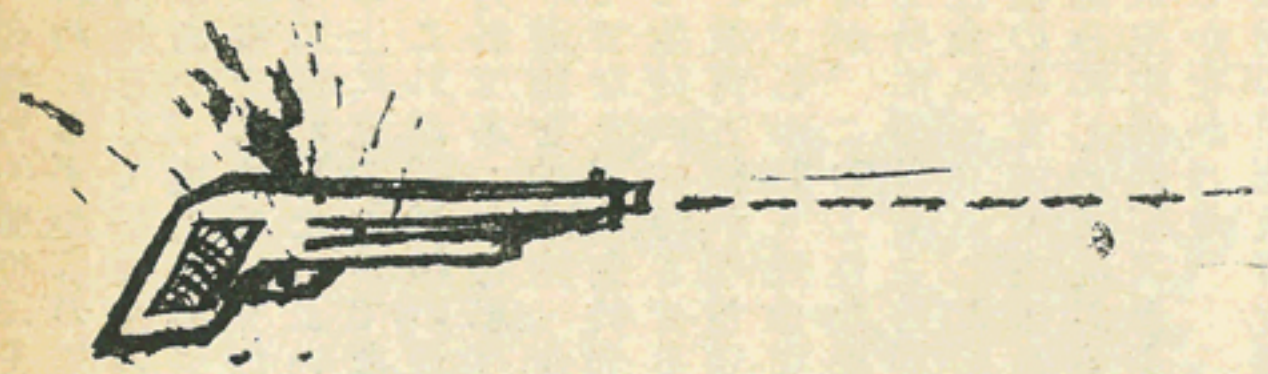
経営は「人」なりというが、見透しとコントロールに卓越する「人」のことを意味する。このような人材の養成に「見透し」をたて、「教育」(コントロール)したらどうだろうか。設備や資金の長期計画も、人材養成の長期計画で裏付けられなければならないはずである。妄言多謝。

昭和二十八年正月

ある殺人事件

浜 林 正 夫

(母校助教授)



いまの世の中でも、松川事件だとか白鳥事件などのように、真相のわからない事件があるのだから、まして何百年も昔のことになると、事実をあまりにすると、たまたま、なかなかに大変なことがある。たとえば私が専攻している十七世紀のイギリスで、こんな事件があった。

一六七八年十月十七日の夕方、ロンドンの郊外を歩いて二人の男が、道ばたにステッキと手袋がおちているのを発見し、附近をさがしたところ、籐のなかからうつぶせになって背中を刀のつきささった男の死体を発見した。帽子とかつらとは近くには落ちていたが、バンドと襟飾りは見当らず、財布には手をつけられていなかったが、手帳はなくなっていた。検屍の結果、被害者はエドモンド・ゴッドフリという役人で、他殺であることはあきらかであり、現場の状況からみて、よそで殺してここへ運ばれたものと推定されたが、加害者の見当がつかない。ゴッドフリは真面目な男で個人的な怨恨ではなく、金もとられていないので強盗の仕業とも考えられず、政治的犯罪ではないか、ということになった。

人物があらわれ、カトリック教徒にやとわれた二人の男がゴッドフリを殺したのだという告白をした。この告白にもとづいて三人の加害者は逮捕され、翌年二月、三人とも死刑になったのだが、事件はそれだけでおさまらず、カトリック教徒の叛乱計画説がますますつよまり、心理的なパニックをひきおこし、カトリック教徒が投獄されたり、カトリック教徒を王位につけないようにしようという法案が議会へだされたりして、政治問題へ発展していったのである。

ところがあとになって、カトリック叛乱説は事実無根だということがわかり、死刑になった三人の男も無実だということになった。そこで逆に、カトリックを弾圧するために、プロテスタントの側がしくんだ陰謀だったのではないかとということになったのだが、結局、ゴッドフリを殺した犯人は誰かということには、今日にいたるまでわかっていない。いろいろな学者が説をたてているが、いずれも証拠不十分である。おそらくこの事件は永久に未解決だろう。

こういうことを調べていると、松本清張を読んでいるみたいで、大変面白い。だが考えてみると、これほど派手ではないけれども、歴史の勉強には、これよりもっと難しい、隠された真実が一杯あるようである。疑いだせばキリのない話で、いい加減のところでは妥協をして、他人の説をうけ取りしてもっともらしい顔をしていることが多いのだが、それにしても歴史などというのは空恐ろしい学問

だどつくづく思うことがある。つまりぬ道をえらんだものだと、なげいてみてもはじまらないが、その道を商売にして、十年以上たつてみると、厚かましさが身につくとともに、学問というものの不気味なほど底知れぬ奥行をかいまみて、身ぶるいがすすんでみる以外に手はない。

それにしても、無実の罪で人を罰することのないように、とは、三百年前の事実を追求している人間の、このごろの世相への、祈りに似た感想である。

昭和三〇年以降の緑丘人へ
若人々の「緑丘」でありたい
ものと願う。

特に昭和三〇年以降の「緑丘人」のための頁を設定したので大いに御投稿下さい。

一行 十六字で、
母校のおもいで、
教授のおもいで、
北から南へ別れて行った彼をおもいつつ……。

締切は四月、六月、八月……。
隔月十五日です。

(写真)
同期の集りは必ず写真も送って下さい。
(編集部)

御申込と憶い出の記を今すぐに



盛田さん、伴先生、盛田さん(中央)手をそえる大野先生

限定版 伴房次郎先生の書翰と追憶
出版準備にかかると

伴房次郎先生の書翰と追憶 出版のことを広く同窓の方に御知らせしたいと思ひ、「緑丘」発行部数を倍にして御送り申し上げます。

初めてこの「緑丘」を御覧の方もございましょう。

三十六年の六月号から毎号「お手持の伴先生のハガキや書翰の貸与をお願いしてまいりました。先生の憶い出の記もあなたの手記で頁を飾っていただきたいものと思ひました。四月〇〇字詰原稿用紙に何枚でも書いて直ちに編集部宛御寄稿下さい。

盛田さんと伴先生

越 崎 清 二 (昭11)

盛田君(大10)さんが亡くなられたのは昭和三十七年八月十九日であった。二十二日住吉神社での告別式に私も参列した。未だ残暑の候で奥様は細の喪服であったことを記憶している。六月下旬参議院議員選挙の終盤戦に、苦米地先生の応援をお願いすべくお宅の清風亭に電話をした処「札幌で倒れた」旨を奥様から承った。二か月前に満たない出来事であった。「緑丘」誌上に伴先生書翰集の申込者名が掲載されるようになって、私も盛田さんの名が現われることを予期していた者の一人であった。

私は盛田さんとは特別親しい間柄ではなく、先輩としても十四、五年の隔りがあった。もっとも地元小樽にあって北海ホテルにおられた当時から折々顔を合わす機会があった。戦前は言葉交わした記憶すらなかつたように思う。戦後大学昇格と創立四十五周年と二回に亘って伴先生が東京から御来校になられたのを契機として、盛田さんとお目にかかる機会が比較的多かったにすぎない。

伴先生が亡くなられた年の昭和三十一年七月最後に小樽を訪問された折も宿舎は盛田さんの清風亭であった。その折私と同期の渡辺一夫君とがここをお訪ねして、丹前姿にくつろがれた先生を同君が愛用のニコンでとらえた写真は先生の晩年のよき記録であったように思う。

盛田さんと伴先生との間柄を私はよくは知らないが、神社の葬儀に列席をしていながら、伴先生が最後に泊られた清風亭の奥の部屋には確か先生の筆になる掛軸がかかっていたことを私は不図思い起した。告別式が終つての帰り際、私は奥様にお悼みの傍らこの掛軸のことを不慮にお尋ねして神社の階段を下りた。

ここに掲げた伴先生の双の掛軸を奥様から電話を頂いて撮影に出向いたのはそれから間もないことであつたように思う。奇しくも伴先生がお

泊りになった奥の部屋の床の間に二本の軸を掛けていたことになつた。一本は真新しく一本は幾分年数を経た色合いに思われたが、何れも同じ昭和十四年の夏と初秋の揮毫である。先生の御気性柄この種のものの残されたものは極めて少ないことであらう。恐らく盛田さんの懇望によつて先生が書かれた以外軸として残るものはないのではあるまいかと思われる。この書に使用の印章二個は盛田氏がわざわざ調製の上先生に送り届けたものである旨を奥様から窺うことができたからである。

書翰集の成ることを待たず申込みのまま盛田さんが他界されたことはまことに惜しまれてならない。私は盛田さんの心情を知る由もないが、この書翰集に盛田さん所蔵の伴先生の掛軸を加え得たことは喜びに堪えない。

伴房次郎先生の書翰と追憶 刊行
会員(追加)
中野清一 (広島) (部数) 五
中島与市 (小樽) 一
服部兵吾 (名古屋) 一
合計 一一〇冊

南山多浮雲北山有高樹因風暫來依風回
復飛去兄弟滿四海幾人此相遇握手交百
秋今襟滋千慮銀跡不可常無為嘆不住

中庭有勁草烈烈凌寒霜及至衆芳發努力
媚春陽奇質無可見一心與物忘嗟彼破礎
者先時自摧傷

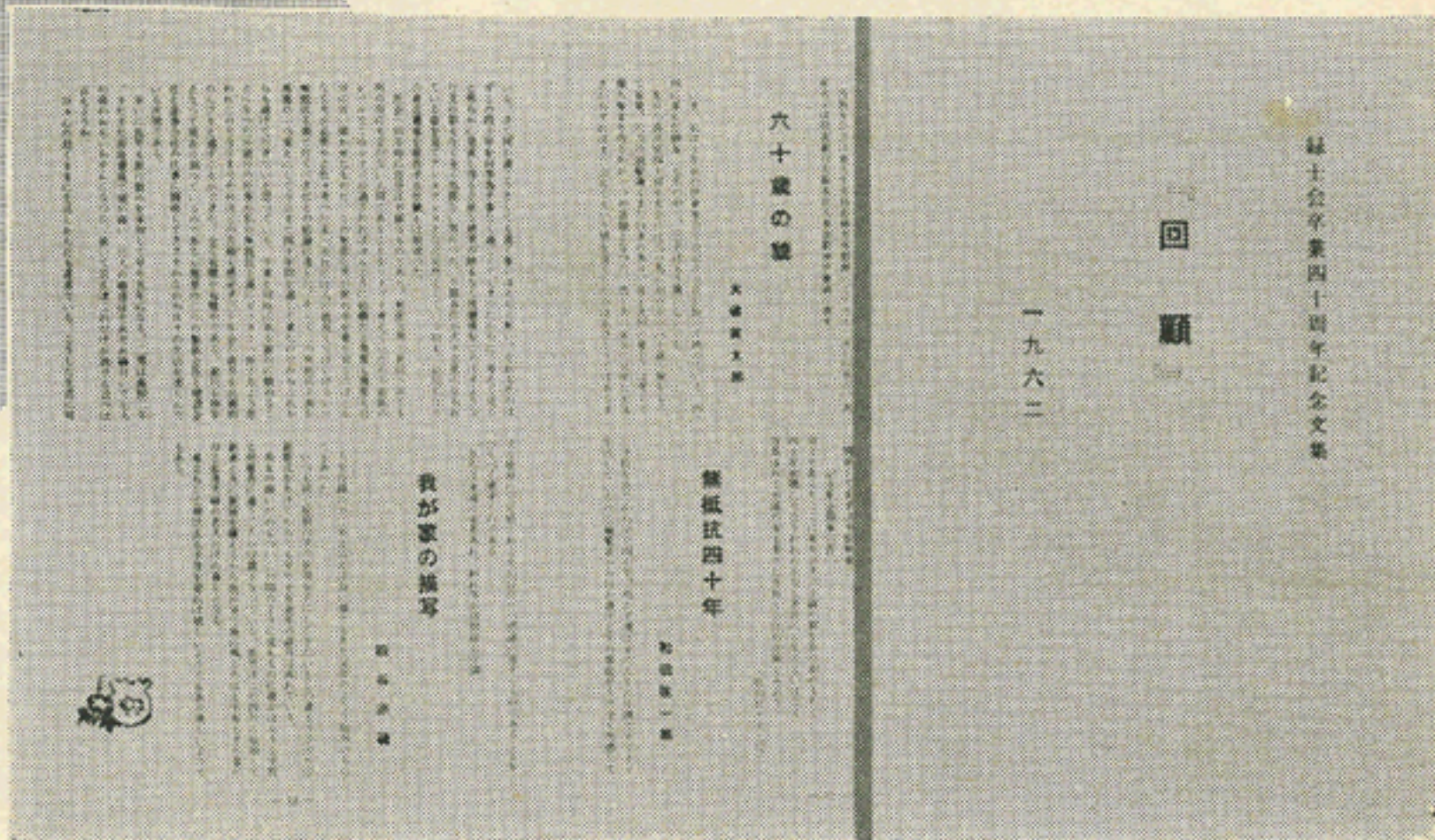
昭和三十一年四月五日 松崎書

大正十一年卒業記念文集

「回顧」

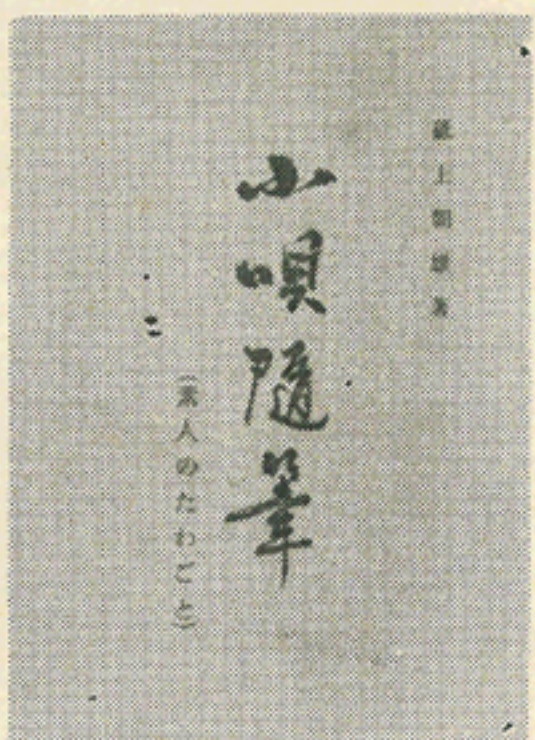
相沢正美氏の努力で出版なる

余話 緑丘



題字「回顧」は元小樽高商教授椎名幾三郎先生の筆

大正十一年卒業の「緑丘会」は卒業四十周年を迎えて記念文集「回顧」を発刊した。編集者は相沢正美氏である。昭和十二年頃在阪當時は緑丘会大阪支部育ての功勞者であり、北海道で病に倒れ、今なお病軀にかかわらず、同期の諸兄に原稿を依頼し第一回十三通の寄稿あり、第二第三回の督促によって四十数通に達し、恩師中村賢二郎先生、椎名先生、目黒先生、大熊信行先生大平善梧先生等にも御執筆を願っている。



新刊紹介

砥上朝雄著 (大10)

小唄隨筆

(素人のたわごと)

砥上氏は大正十年卒業と同時に横浜銀行に入行され、終戦後北陸銀行に籍を置かれて通算四十年間外国為替関係の仕事をした方である。二十代から尺八をやり、和歌、俳

同期の方々は次々にその感激の通信を寄せている。よい友人に恵まれたことを今更に有難く思う次第です(大泉行雄氏) ■本堂に立派な記念塔ができました。ほかに誇れるものと思えます(村上武夫氏) ■全巻相沢君の氣概があふれ、病人の小生に大いに刺激を受けました(清水宗兵衛氏) 題字「回顧」は椎名先生筆 一年前の三十七年三月十七日湯河原温泉での四十年記念会出席者録音を紙上に再現している思い付き、努力はこの「回顧」をさらに生かしている。

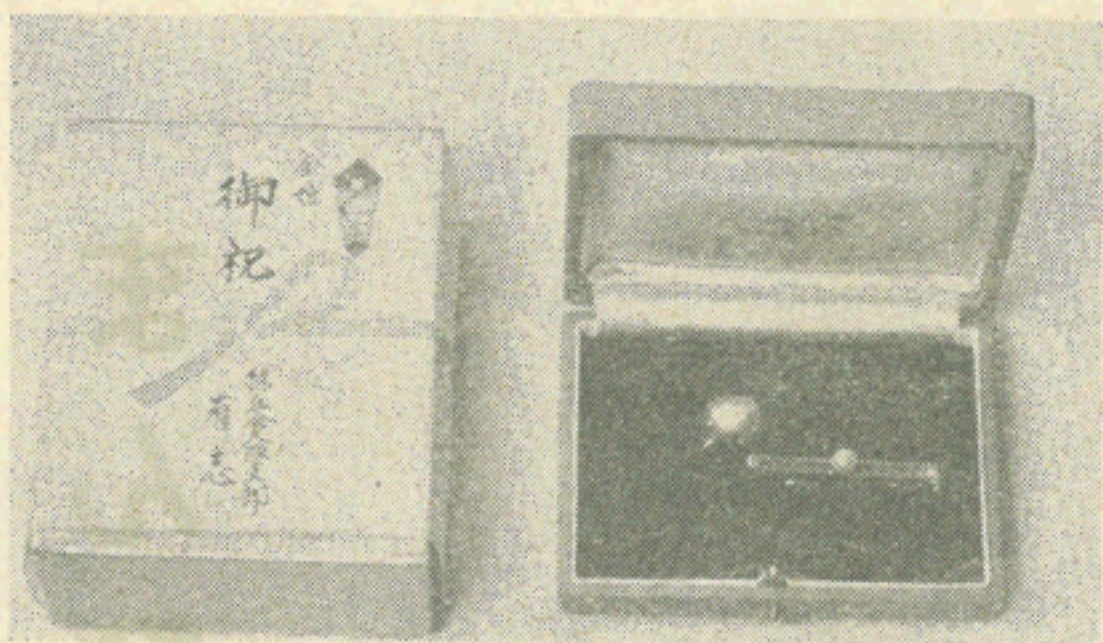
句に興味をもって終戦後小唄と清元の手を染めたと「はしがき」に書いておられるがこの「小唄隨筆」は著者の経験と邦楽に関する文献を駆使して面白くまとめられたものである。著者は「素人のたわごとです」とけんそんされておるが少しでも邦楽に関心のある方には一読をおすすめしたい。殊に小唄の家元を九十有余も挙げて、舞台で唄う要領はかくあるべしと指導されており小唄ならずとも講演の要領またかくあるべしと教えられる。吉原とおいらんについてもまた造詣が深いことを付記したい。紙面に余裕があり次第号からでもお許しを得て転載をしたいものである。(自費出版)

金婚の祝いをお迎えした

苦米地先生御夫妻へ

大阪支部(有志)のプレゼント

大阪支部では新年パーティーに出席の諸氏一同から金婚をお迎えした苦米地御夫妻に(左の写真)真珠のタイホルダーと帯留をプレゼントした。



御無沙汰申し上げ恐縮に存じます。静かに何もせずに暮す覚悟でおりましたが、仲々それも参らず、あれこれと引き出され相当忙しく日を送って居ります。

緑丘会大阪支部
支部長 天野雅司様
侍史

昨日高野君(東京支部)が遠路を御尋ね下されまして、緑丘大阪支部有志の方々の御芳志として貴台より御預りして来た由で、金婚記念品を御届け下さいました。昨年御地へ罷越し、貴台初め皆様の御厚情に浴し、今も忘れ難く、恐縮感謝致して居りますのでほんとうに何と御礼を申し上げます。しかし折角の御思召しで御座いますので難有く拝受、長く宝蔵致します。家内も小生同様感謝申し上げます。よろしくとの事で御座います。大阪支部の方々は貴台より可然御取り成し頂き度く存じます。先は御礼まで
三八・二・一〇
敬具

苦米地 英 俊

ルネッサンス時代を背景に

研究書(ノンフィクション)を執筆中

北海タイムスの報ずる所によれば、加茂学長は昨年からは執筆中のルネッサンス時代を背景とした新聞連載小説を完結すべく筆を進めておられるとのことである。

ダビンチやルネッサンスの研究で世界に名の知られた学長だけに、当時の実在の人間、衣裳、ことばづかいなど登場人物や背景は学長ならではの考証が見られるであろうとの期待は大きい。

加茂学長大いに書きまくる

主人公はルネッサンス時代に生き、当時マキャベリが「君主論」を書いたさいのモデルだといわれる「チエザレ・ブルシア」という男性。当時ダビンチ、ルター、ミケランジェロ、ラファエロ、マキャベリなど多くの偉人が輩出した時代。学長の構想では、このチエザレ・ブルシアをとりまく人々とその時代を、できるだけ史実に忠実に書きたいという。

主人公チエザレ・ブルシアはどんな時代にも「生きる」人、そのエピソードなどから善、悪、人間性があらゆる時代を超越しているようなと「興味のある男」で、永ごうの時代いわれるルネッサンスに実在して意のままに行動した人だという。

小樽商大経済視察旅行団四〇名
(編者)伊藤森右衛門助教引卒で
東京一名古屋一京都一大阪一

小樽商大経済視察旅行団は三十九名の学生と共に伊藤森右衛門助教引卒で東京に三月三十一日集合する左記日程で工場、事業所を見学するので先輩諸兄の御教導を御願いたい。すべて学生諸氏の自主的計画によるものと聞いている。学長はなるべく母校卒業生による引卒教官と洩らされた事がある。同窓諸兄との交歓、同期生との旧交を温め、実社会の諸問題に振れさせたい学長の配慮であろう。この際同窓各位は勿論、同期生等進んでこれら経済視察団には面接、大いに意見の交換をされますことを希望します。幸い伊藤助教は経営学の泰斗であり、経営者リーダーシップの論文で博士号を獲られた新進の学徒であります。

- 三月三十一日―四月二日(東京) 三月(宿泊旅館)伊豆旅館(東京都台東区西町四五)
- 四月三日―四月五日(名古屋) 四月(宿泊旅館)朝日館(名古屋府中村区堀内町二丁目二七)
- 四月六日―四月七日(京都) 四月(宿泊旅館)ハト屋(京都府下京区西洞院塩小路下ル)
- 四月八日(大阪) 四月(九時―十二時)松下電器産業テレビ事業部見学)
- 四月八日 一四時大阪駅前解散

のは、まるで事務屋で会社の滓みたいなお布施を貰って露命をつないでいる。男子一生の仕事とはちよつと言えない。こいつは見どころのありそうな男だから公私にわたって面倒をみてやれば、蔭に廻ってこそそやあって、そのうち「ハイ、サヨウナラ」ってなものである。二十年の間こんな経験を何回かして、人間を信ずることはもうやめた。せいぜい信用できるのは、親父や家内、子供といったところであろう。はかないものである。緑丘の先輩後輩のうちでもほんの限られた数の人が、私の信頼できる範囲にある。恋人だつて十年、二十年つき合っているのは、ある程度までは信頼できるかもしれないが、いづつどうなるかわかったものじやない、それに近頃「女」がこわくなってきた。女が女を売り込もうとする商魂は凄いのだ、特に銀座あたりで果てな夜の蝶だか蝶だかしらないが、連中の女の売り込み方は恐ろしいようなものである。こつち金でもありそうだと思えば、毎日電話がかかってくる。ところが、根っから素寒貧とわかると「ハイ、ソレマデヨ」の挨拶もない。惚れてみようともしないが、頭から水でもぶっかけてみたいような気のするときもある。それをあいつは俺に惚れているんだと早合点する連中は、このこ出掛けてゆく、私はそういう馬鹿な真似はやめることにした。

方から遮蔽するか、まずそれを真剣に考えなければならぬ。下手な別れ方をしようものなら、自宅にまで押し掛けてこられる、そうなることすべてが不幸になる。しかし相手の誠意のこもった愛情には、やはり心から愛情で応えてやらなければならぬ、といつて永久に自分のものとしておくことができないことは、通常わかったことなので、別れ方をどうするか、これは真剣に考えておかなければならないと、某なる先輩が教えてくれた。

ところで、私の卒業年次が、本誌では昭和十四年になっていましたが、私は昭和十五年の卒業が正しいのです。その経緯は昭和十三年に軽い肺炎カタルかなんかやり、その年の秋からニセコの麓の昆布温泉でまるまる半年休養し、休学してしまつたのです。石黒君やなんかと一緒に卒業できなくなりました。しかし卒業してからは、昭和十四年の連中とよく付き合っています。そのためつい間違えられて申訳ありません。若しバトンの渡し先を指名させて戴けるなら昭和十四年卒、三浦（旧本宮）正君にお願ひ致します。

かねて同級生の幹事からこの陽春三月卒業四十周年の集いを営む旨の通知があり、大いに参加を望みにしていたが、急に二、三週間前業界団体からの要請があり突然一カ月余り米国カナダへ出張旅行の己むなき仕儀となつて折角の楽しみをフイにせざるを得ず甚だ残念に耐えない。歴史の上での四十年とは違つて個人生活における四十年は流石に長いと思う。その証拠に、ふり返つて見ると速い昔のことなど霞かモヤの中を透して見るように、記憶も、と切れ勝ちのことが多くなつた。しかしそれだけに、また丁度モヤの切れ目に射し込む陽光に照らし出される風景のように心に浮ぶ数々の思い出は、歳月の篩に浄化されてか、一層心に甘く感ぜられる。

四十年の歲月

日南田 義 文

(東京支部)

在通し、精々同窓の集いにも参加するよう心掛けていたが、同じ京浜地区でも勤務が横浜であるだけに、とかく集合時間に都合のつかぬ場合が多く残念だ。

僕は三年間第三寄宿舎文行寮に頑張つたが、そのころ大本教と言う新興宗教が不敬罪か何かで新聞を賑わしたことがある。何とか婆さんの御筆先なるものが、やがて来るべき天変地異を警しめた以上に、何十年後の日本が世界の孤児として東西南北、腹背から敵襲を受けて焦土となるが、やがてまたたくましく生き延びて行くと言ふような当時考へも及びばぬ荒唐無稽な予言をしており、それが人心感乱を来すものとして弾圧されたわけだが、僕等もまたその非現実性を指摘して、その無稽を笑つたものである。

しかしその後四十年の経過を辿るといささか異様の感なきを得ない。今や宇宙旅行の時代にさへ入ろうとしている、当時老洋たる太平洋を越えての海洋作戦など不可能と信じて御筆先を笑つたが、今となつてはハテナ何方が慍巧だつたか、と思わせられる。

とに角四十年の歲月、持にわれわれの生きてきた四十年は夢を現実にし、桑田を蒼海に變じた偉大な内容を探つた四十年であつたと思う。更に明日何が起るかと思ふ楽しみでならない。

次は広島大学の中野清一先生(六一五)に御願ひします。

(六一〇) 堀越商會取締役)

札幌だより 雪まつり



【ガリバー旅行記】



【シンデレラ姫】

七 慶 村 木 (大一一)

今回二月一日から三日までの雪祭りは第十四回目で連日好天に恵まれて、大通会場は昼夜共、物凄い人出でした。三日間で百二十万人位の人出と事務所発表していました。夜はアーチ照明塔外に二千個の色電球が会場を取り巻いて祭りムードをいやが上にも盛りあげておりました。

「ガリバー旅行記」「アラビアンナイト」「シンデレラ姫」等の大物の外に、大小合わせて八十一基の雪像展は何れおとらぬ傑作揃いでした。

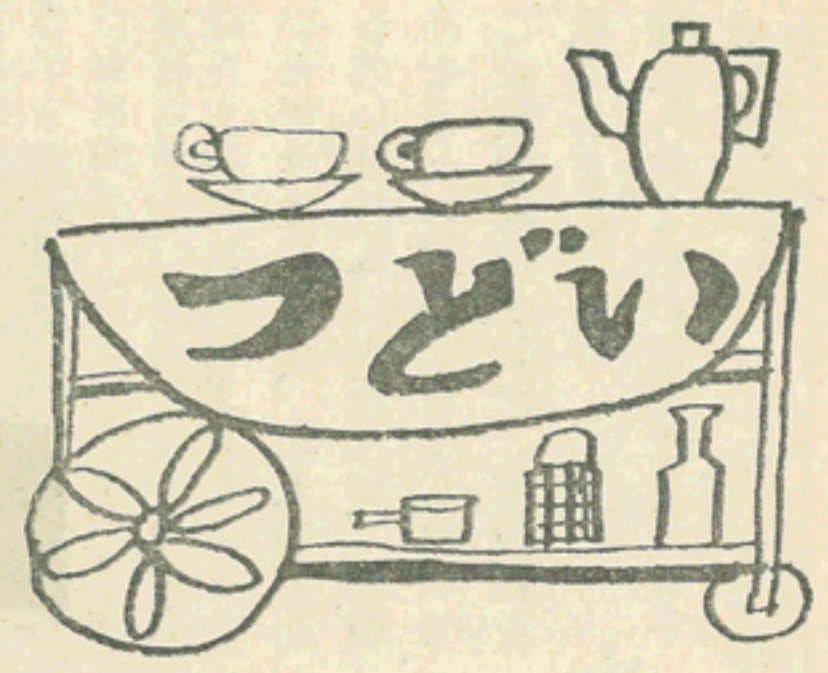
「ガリバー旅行記」外二点等は何れも高さ十数メートル、なかでも最大の規模を誇つた「ガリバー旅行記」は高さ十三メートル、使用した雪像の美しさは大理石像にもおとらぬ程という頗る好評でございました。本場に南国の皆様にお見せできないのが残念な位でした。また芸能人も多数来札されて舞台に絢爛豪華な音楽やショーと多彩な催しが繰り広げられましたので多くの見物人客は夜の更けるまで、北国情緒を十二分に味わつたようでした。ことに本年は、遠く関東、関西からの御客様や外国人の方々までテラホラと見受けられてますます札幌市の面目を發揮できたというものであったでしょう。

まずは右「雪祭り」のアウトラインを記して「札幌だより」と致しませう。

「写真」：雪まつり風景はシオノギ札幌支店木村俊也氏(昭一四)の提供

まんびつ執筆者

- (大三) 高橋徹男
- (大六) 伊東小四郎
- (大八) 戸井正三、大野純一、三好長次
- (大九) 菅谷重平
- (大一一) 宮地邦介
- (大一二) 田中弥三郎、塩谷精一郎、古関周蔵、大久保鹿式、大井繁正、渡辺一夫、小河成美、池田繁正、田中実、穴釜升夫、玉井武次、片岡亮一、小武海鉄郎、松原治郎、森下弘、北村良吉、桐田鉄郎、佐藤信雄、若林周五郎
- (大一一五) 増田常次郎
- (昭二) 黒羽秀夫、牧野吉男
- (昭三) 佐竹繁寿、樋山三郎
- (昭四) 小山健児、湊静男、高橋一男、玉井英夫、宇山慶三
- (昭五) 池田啓助、井藤久也、吉川友記、北村太治郎、横井七之助
- (昭六)
- (昭七)
- (昭八) 土岐秀雄、本間広松、小池三郎、高見美雄、会津幸雄
- (昭一〇) 篠崎万治郎、若月雅司、北村匡弘
- (昭一一) 浅野潔、土屋龍郎、木下春男、三崎嘉郎、島崎保信、中道良徳、川原俊一、松井要吉、進藤彰、越崎清二、中木平三郎、丸山一郎



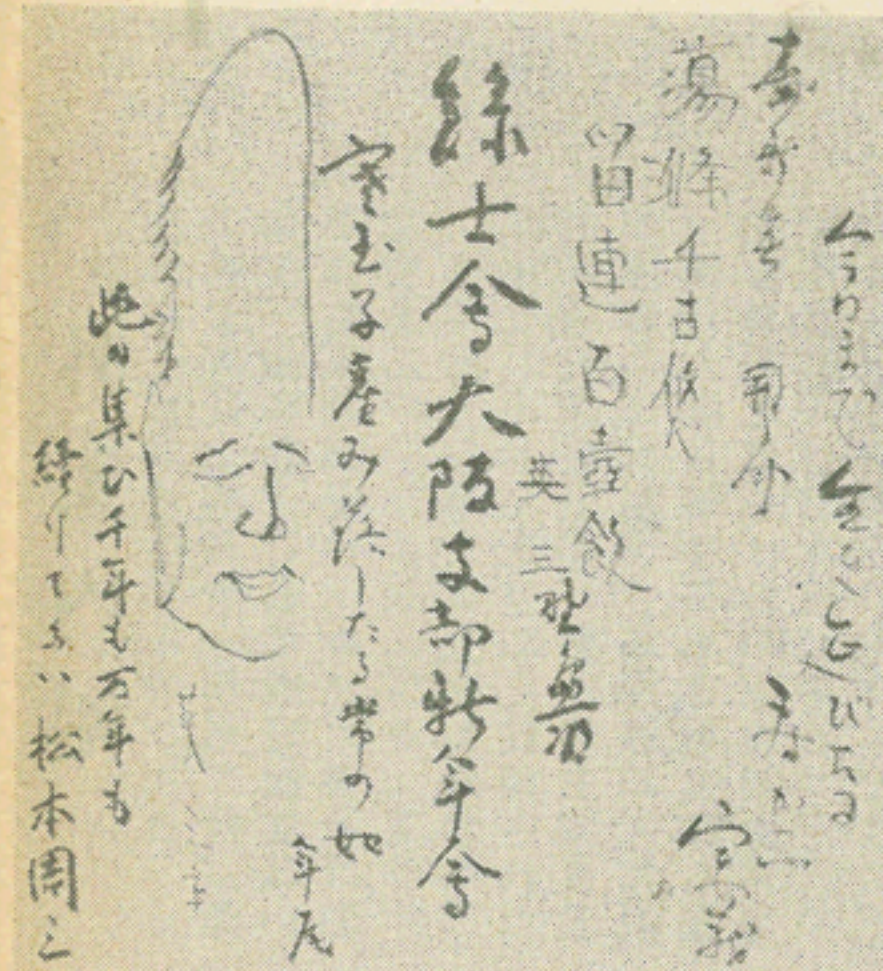
阪神緑士会報

一月十七日夜、曾根崎「みどり」に新年宴会を催す。出席者、四谷、高浜、野島、松本、宮地、ゲスト轟目画伯。

何時もながらの美酒や名吟の記事ばかりでは興がないし、ことに昨年末卒業四十周年を記念して相沢君が病余衰残の身に耐えて、編集してくれた「回顧」の珠玉編に感激を新たに思ひ出話にも一段と花を咲かせた出席の諸君の真意でもあるまいと考え筆視を新たにした。

まづ高浜君より三沢、山岸両君の身辺報告あり、語るところ真面目さあり、笑いありその織りなす話術はさすがに俳味復郁たるものあり、宮地より香川大学の大泉君のことども(ついで、三日前高松出

- (1) 雪空を落ちくるものもなかりけり(この句は宗匠小樽在学の折、四谷君同席の句会に作られたもの。四谷君今以てこの句を記憶し持に懇望せり)
- (2) 雪を掘る四角な雪として投ぐる(小樽時代の作なるべし)
- (3) この間逢ひしばかりに去年今年(近作とのこと)
- (4) 東山低し春雨傘のうち(宮地乞うて色紙に書いてもらったが永く家宝となるだろう)



- (5) 御道路の美しければあわれなり(四国四十八箇所某札所に句碑となつてゐること、同窓香川清夫君が御夫婦連れで巡礼の途次年尾と誌したこの句碑に巡り逢いかつ驚きかつ感心したと聞いたことがある)
- (6) 寒たまご生み落したる常の如かるたとる手のすばしこく美し



別に宗匠の題字ならびに名句を中心にして出席者一同寄せ書きをなした目画伯がマツチの軸に墨をつけてもした四谷大人の似顔絵も興趣を供えた。色紙は記念写真と共に紙上にのせて貰うことにした。(宮地記)

工業 化学 積水 旭
肥料 窒素 新日本 旭
工業 化成 旭

特約代理店 プラスチックの総合商社

田中弥商事株式会社

社長 田中弥三郎 (大12) 専務 山家利典 (昭12)

本社 大阪市東区北浜2丁目74番地 TEL.0655640~9
東京出張所 東京都千代田区神田淡路町2丁目19番地 TEL.032271・5259

大阪(大12)新年懇親会



去る一月十二日われわれ大正十二年は大阪北の浪花ビル新北京で新年宴会を開催しました。集った面々は、大久保、大竹、小山、田中、飛岡、喜多村、丘村の七人の壮年組、何人かのおぢいちゃんもおる筈だが、のむ程によろ程にますます若返り話もつきない。佐藤宮二君、病氣のため参加できなかったのは残念だった。

- 〔左から〕小山、大竹、大久保(後列) 丘村、喜多村、飛岡、田中(弥)の諸氏(前列)

南亮三郎先生を囲む会

一月五日 熱海山荘で

を加え、「マルサス巡礼」の出版を準備中とか。大塚氏一〇〇冊お引受けいたしましたしようと申出ると先生はまあまあ、あまり宣伝せずひかえ目に願いたいと静かな口調で学者らしく語られたがいざ出版の場合は及ばずながら微力を尽したいと心にきめたのは私ばかりではなかったらう。(森川記)

元小樽商大教授 現中央大学教授

- 新春の熱海川崎重工の寮へ元南教授ゼミのメンバー六名が先生をお迎えして旧交を温めた。
- (出席者)
- 昭九 諏訪 寿(銀座宝石商)
 - 昭一〇 大友福夫(専修大学教授)
 - 同 大塚武夫(輸出検査協会連合会事務局長)
 - 昭一二 石川孝一(川崎重工鉄構部長)
 - 同 森川正明(計理事務所)
 - 同 岡田春夫(代議士) 世話人
 - (欠席者)
 - 昭一〇 佐藤武(浅野セメント)
 - 昭一一 大島 清(東京教育大学教授)
 - 昭一二 梅原音二(三菱地所株式会社)

大正十三年 東京クラス会便り

去る一月二十三日午後六時から赤坂、富美川で新年クラス会を開きました。この日通知を出した先が東京に近い関東各県を入れて四十五名、当日出席者は次の十二名。相も交らぬ応援歌が粋な赤坂にひびいて九時過ぎ散会。

なお同日長い間常任幹事を勤めていただいた大谷辰雄君の発議により後任幹事をまたまた小生が引受けることになりました。昭和二十九年以来九年ぶりでまた巡って来ました。不行届ながらできるだけ相動みましますから、全国の級友各位何卒よろし

く。

事務所は 東京都中央区京橋一の二 新八重洲ビル
千代田火災海上保険会社
東京駅八重洲口ブリッジストンビルの南隣です。御通りがかりの方向卒御気軽に御出で下さい。(手島社長も緑丘昭和二年卒御承知の通りです)

当日出席者(敬称略)

高浜年尾、田中修吾、二馬吉郎、谷弥太郎、広島進、広野允幸、久保田敬一、大谷辰雄、水上貞、麻生正夫、中尾晃、古関周蔵

(古関記)

南先生からマルサス物語についてお話があり、持に一九六六年はマルサス生誕二〇〇年記念祭に当り、世界各国のマルサス学者の論文を南先生の編纂によって日本で出版される予定とも聞く。話は昭和一〇年から一二年頃の母校の思い出や学者と政治家の現状認識問題まで、回顧談から時局批判まで夜の更けるのも忘れて語り明かした。

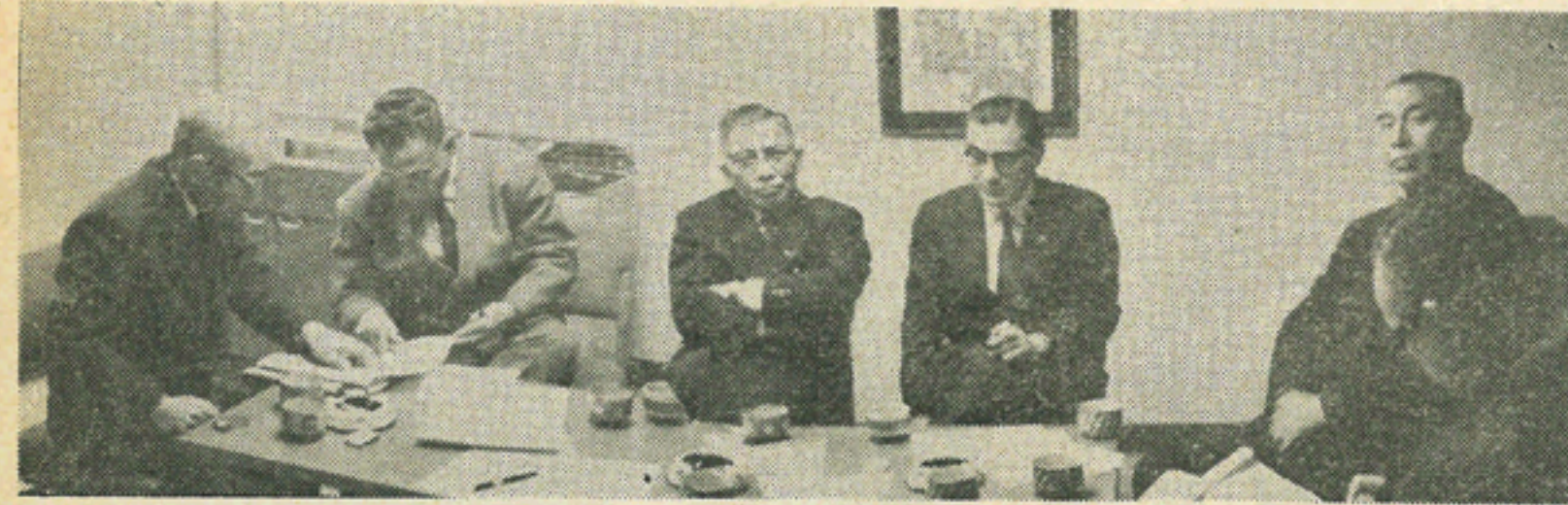
先生にはますます若くお元気で先般出版された「欧米人口の旅」に筆



大阪支部 母校募金態勢に

最後の追込みをかける

締切は七月三十一日



(左から) 宮地事務局長、天野大阪支部長、大久保元大阪支部長、堂城本部理事、木村募金推進委員 (墓目幹事長撮影)

全国的に母校の募金運動を展開して来たが大阪支部においては二月現在七百三十万円(法人関係)を集めて、さらに左の各社に対し追込みをかけて、所期の目的を達せんものと支部長、事務局長は各募金推進委員を二月十六日午後四時から日本麦酒大阪支店会議室に糾合し、具体的推進方法を一社毎に検討した。

松下電器、グリコ、久保田鉄工、江商、岩井、東綿、丸紅、高千穂、野田喜、大井証券、野村証券、東洋紡、敷島紡、鐘紡、日立造船、塩山ドック、藤沢薬品、田辺製薬、同和火災、富士火災

(出席者) 天野大阪支部長、宮地関西事務局長、墓目幹事長、若山副幹事長、大久保相談役、堂城本部理事、木村募金推進委員

三月一日母校から学長来阪、宮地事務局長と各社を訪問し二日緊急十日会を開催して母校の近況を聞く。



日立商品特約店

日本電気機器株式会社

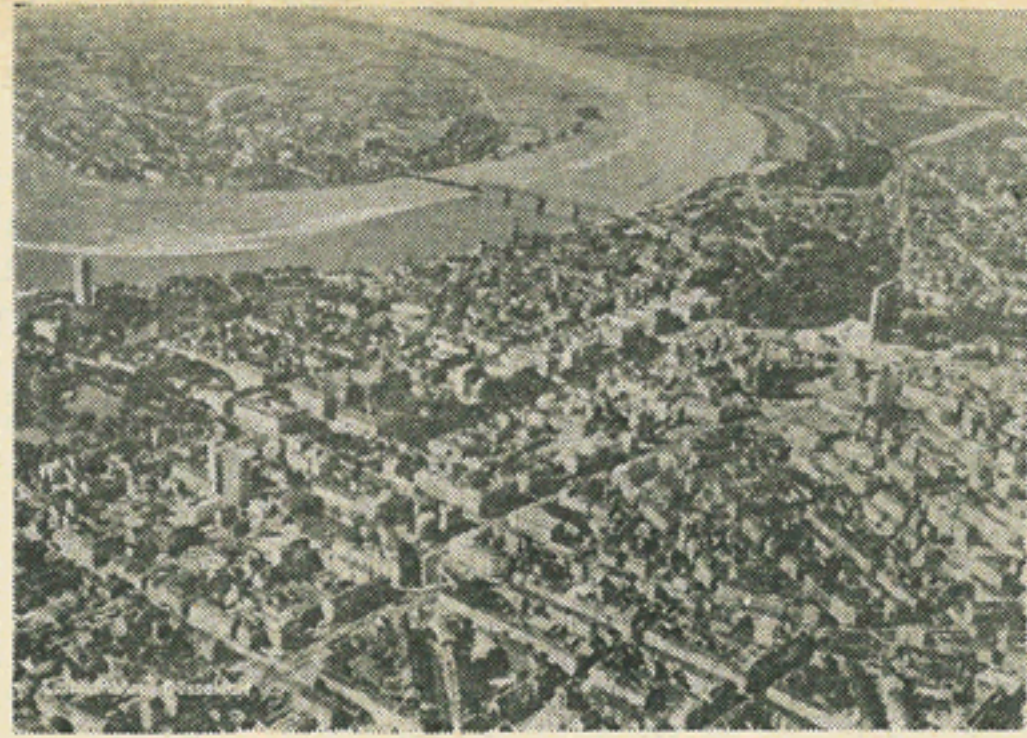
取締役社長 天野 雅 司 (大正15年)

本社 サクラバシ日立ショーストール

大阪市北区曾根崎新地2丁目50番地

電話大阪 (361) 8 8 7 1 番 (代表)

大阪 (361) 4602番 (夜間専用)



ジュッセルドルフより 牧野栄二(昭一一)

緑丘昭和十二年の皆様御元気で、か、便りなんか書いたことのない奴が書いて見たくなるのはやはり異境にありGirl Friendのまさしくいな証拠です。私再度の渡欧。E・E・C経済使節団員であった社長の靴



持ちも終りウロチヨロウしている間に、とうとうクリスマスも当地で迎えました。日本と異り(相変らず鼻の下を長くして一晩中ねばった奴もいたことでしょう。覚えのある方はこの勘弁あれ)二十四日夜など電車も一部ストップ街も人通りなく淋しい本場に文字通り

Silent Night Haly Nightでした。たまに美しいお嬢さん(イヤオカミさんかも知りません)小犬を連れての散歩を見ては「犬になりたや」の溜息が出ました。正月は伝統の地ロンドンです。池田さんと異りスモッグだけは持って帰りません。よき年を迎えられんことを遙かに祈り申し上げます。一九六二・一二・二七

酒井康正(昭一四)

「緑丘」の一頁一頁に苦心のあとがしのばれて、感謝の外ありません。私も、もう小樽から離れることもないと思っております。小樽緑丘会の一員としてでき得るかぎりの御役に立ちたいものと、いろいろの会合には努めて出席しております。良く同期のものは金と暇がないと申しますが出席することがなければ、いつも暇がないことになりす。会に出席することはやはり何か有意義です。小樽に同期生がほとんどおらず札幌に相当数居る関係で同期会も札幌で開催されるのですが、これにも努

めて出席致します。緑丘会のみならず盛んになることを祈りつつ、次号を楽しみに致しております。

カラチ便り

亀井尚一(昭一八)

緑丘会大阪支部の皆様、御元気で良いお正月をお迎えのことと存じます。旧年中は本場にいろいろの御世話になりました。本年も何卒相変りませすよろしくお願い申し上げます。先般は「緑丘」ありがとうございました。度々貴重な誌面をさいてカラチだよりのせていただき恐縮です。遠くカラチに離れておりまして、おかげで地獄会あの楽しい様子を目のあたり見るが如く知り、心からなる拍手を送ったりすることができてとても楽しいことです。

緑丘誌が充分の予算もない中からただ墓目さんや若山さんの献身的な努力によって今日までやって来られていることを知り、郵便料の足しにでもなればと思ひ女房に貴殿宛送金申上げるよう申し付けておいた次第です。それから御笑納下さい。

それにしても墓目幹事長の御苦勞もますますおつむの方がうすくなりはないかと心配する次第です。とにかく同窓会の催しにしても会誌にしても、自己を犠牲にし馬鹿のようになつて世話をやいてくれる人がいないとだめなもので、この点名世話役を持つている大阪支部は幸福だと思ひます。私も二度目のカラチ正月を迎え益々元気で。

では皆様何卒御元気で。 草々

山尾温吉(昭七)

小樽本部の緑丘新聞と合併編集の案が出ていましたが、私も大賛成です。

内地へ出ると仕事の外に大いに欲張って同期の方に会おうとするものですから、思い通りに全部が実現するとは限りません。最近年をとったせいか商売外の友だちに会いたく思います。

札幌は例年になく雪が降らず、雪まつりの雪をどうするかで困っています。この頃の札幌はまるで小さな東京で一流どころのバーは東京の銀座並みです。

西川正己(大一一)

「緑丘」小樽持集号拝受、一気に全頁を読み通しました。加茂学長の描く「母校未来図」の宏大な緑丘の将来に、文字通り胸をときめかせました。思い切った大きな構想の下、着々その実現の進められることを祈つてやみません。母校三教官の学位授与、相沢正美先生の「緑丘と博士」楽しく拝読しました。中に大正十五年卒の僕等の仲間、一橋大の小平善梧君が法学博士になられたことが見落されておりましたのでお知らせしたいと思います。苦米地先生も金婚式をお迎えになられまして、皆様それぞれに立派に御成人の御様子を押し遙かに御祝意を表したいと思ひます。

皆川君を思う

石川 孝一
(昭一一二)

十一月十四日の夕刻、私は社用で大阪に着いたばかりであったが、そのこの皆川君の容態が気になり、早速、塩野義製薬にいる墓目先輩に電話をかけたのである。その話では、相当病状が進みどうにもならないというような悲観的なものであった。私は、病院を訪れ、皆川君のおとろえきつた姿を見るのが恐ろしくもあり、耐えられないので、見舞の手紙と枕辺に飾る花を、墓目先輩のオフィスに托して、何か重苦しい気持ちから心斎橋の通りに、夕食を食べに出かけた。

私は、この人と車で埋まった、広い大阪の街を誰一人訪ねるあてもなく、雑踏の中を歩き廻り、地下鉄に乗って大阪駅に帰って来た。東京に移り住んでから、早や七年、大阪の友人とのつきあひもともすれば薄れがちであることは淋しい限りであった。

そのような次第で、十一月二十二日に、長い間の闘病の効もなく、皆川君が亡くなったという知らせをうけたときはとうとう来るべきものが来たと余り驚きもなかった。然し縁に、昭和九年春、相まみえてから約三十年、最も親しき交友の一人を失った悲しみは、日がたつにつれて

て大きな心のいたでとなつて来るこ
とが分つた。
この一年を振り返つて見ると、お互に多忙な生活を過して来たので、互に話し合う機会も少くなつて来た。

私は、昭和三十五年の春、パキスタンに旅行し、夏は沖繩、秋はアフリカ、セイロン、マラヤと飛び廻り翌三十六年の春は、沖繩に二月月滞在することになり、内地を留守にすることが多かった。また今年、鉄鋼関係の仕事に変わり、誠に多忙な毎日を通して来た。

その間、皆川君と会つたのは、確か三回であつたと思ふ。

その一回は、大阪駅前さるパーであった。私が神戸の工場に出かけた帰り道、どのような風の吹き廻しか、夕刻、皆川君の事務所を尋ね、内藤好生君と三人で、そのパーに立寄つた。もともとその頃の私は酒量とみにおとろえていたが、皆川はごく元気で最近、欧米から帰つてきたばかりの旅行談を楽しく語つたりした。このような調子の皆川君は、終戦後甲府から出てきた頃や新日本放送にいたころとの彼と異なり、遠く思い出せば、一寮で生活を共にした頃の彼とも変わるところがなかった。

想えば、東京に居るころは、時々彼の顔で一杯つき合つたものであつた。ただしゴルフは江戸川ゴルフ場ともう一回日光カントリークラブにお供しただけだが、まああの腕で一寮時代の私のテニスと彼の野球の技術に近いものであつたように思う。

その二回は、恐らく、昭和三十五年春、あるいはそれは昨年だったかも知れない。彼が大阪へ転動してからであることはたしかである。私の新橋の事務所に珍らしく尋ねて来てくれた。話は、恐らく、会社の広報活動のことではなかつたかと思ふ。何か、胃腸が悪いということだ。どうか、その日が何時であつたかは日記をくつて見ても分らない。

その三回は、彼が、手術をしたあと、九月の中頃、西宮の彼の家に訪れたときであつた。
内藤好生君と阪神西宮駅で落ちつて、彼の家を探ねる道すがら、皆川の容態が絶えず気になつてきたが、彼の日に焼けた顔色を見てほんとに來てよかつたかと、甚だ嬉しくてしようがなかつた。彼の妻君とは新婚早々の夫妻が満州に立つ寸前に会つてから、初めてであつた。令息、令嬢も大きく育ち、明るく元氣そうであるよりであつた。

私は、その時、皆川は助かると信じ込んでしまつた。いやあるいは天祐を祈つていたのかも知らぬが、それだけ彼は元氣そうに見えたのだ。

今、三月六日附の彼の手紙を再び開いてみると、「……昨年初頭以來、慢性腸炎でズット苦しんだが弱り目にタタリ目で、今後は結核発病で、この十年間の無理が重なつて自分の頭健だった肉體も遂にガタガタになつた感じ。中年になつて健康に自身が持てなくなつたということから少くもこの際徹底的に直してしまつてもいい、思い切つて長期欠勤

☆立石市郎(昭一一二)
同窓皆川が御逝去をされましたこと縁誌上で拝見致して吃驚致しました。御冥福を祈ります。

皆川存命中は公私共に一方ならぬ御世話になりましたこと厚く御礼申し上げます。長い闘病生活中にもいづつも同窓の方々に励ました言葉、どの口も耳もきかなくなつても私にはよくわかり、御礼の言葉も御座いません。主人が限りなく愛しておりました縁誌上をおかりして心から御礼をのべてさせていただきます。

皆川 キク子

【異動】

- 大場賢治(昭一五) 株式会社栗本鉄工所大阪本社から名古屋支店へ
- (名古屋市中区御幸本町通九丁目八 大和生命ビル)
- 龜山英夫(昭一六) ワシノ機械株式会社東京支店企画部へ(東京都中央区銀座八ノ二)
- 山本清(昭一一) 三和銀行東京支店経理部長から室町支店長に
- 岡田保司(昭一一) 郡是製糸株式会社営業総務部次長
- 大阪市北区梅田二番地第一生命ビル四階(アメリカから帰朝して)
- 神田文逸(昭一九) 山一証券株式会社社長崎支店へ
- 電話(2)四一四
- 小宅元義(昭一一) パブコック日立株式会社横浜工場
- から東京本社(東京都千代田区大

色紙贈呈

- 第二十九号に発表しました色紙二枚(富崎信夫氏筆、越崎清二氏筆)は抽せんの結果、それぞれ左の通り決定しましたので御知らせします。
- 日和山燈台(富崎信夫氏作品)
- 山崎真治氏(昭三二)へ
- 小樽港(越崎清二氏作品)
- 宮地邦介氏(大一一)へ
- 御申込みいただきました方々には紙上を以て御通知にかえさせていただきます。

- 手町二ノ四 大手町ビル五階)パブコック日立(総務部副部長に
- 安在七郎(昭五)
- 日本生命保険取締役大阪営業局長委嘱
- 篠田正義(昭一九)
- 東洋木材企業(名古屋事業所から同社大阪紙器工場へ 大阪府北河内郡門真町字門真八八〇)
- 河井弘之(昭一三)
- 大和証券(大阪支店法人本部付部長に
- 堀江実(昭一六後)
- 大正海上火災(神戸支店から東京営業第三部へ(自宅東京都杉並区馬橋四ノ五〇四)

【住所変更】

- 中川正定(昭一八)
- 大阪市旭区今市町三丁目二二四ノ一二 電話(九五一一)七二九五

緑 丘

してしまつた。学校卒業以来三ヶ月も休むことができて本当は、ホットした処だが仲々そうも行かぬ。目下は自宅でゴロゴロしながら八ミリを写したり、本を読んだりしながら、努めてノンビリやっている。三月一杯位休んで陽春からボツボツ出社して見るつもりだ。

夏頃の二十五周年記念会を楽しみにしている貴兄のいうようにできるなら奥さん同伴で楽しく語り合いたいもの、小生の方もできるかぎりの努力はするから東京勢、北海道勢の方も宜敷く御願ひします……

しかし、彼の希望も私の祈りも、遂に裏切られてしまつた。人間の生命のはかなさ、ままたぬ人生である。人生の働き盛りに、彼としては死に切れなかつたと思うと、私の心はしめつけられる思いである。

十一月十六日に皆川の奥さんよりガラシア病院に入院したその後の容態が知らされてきた。苦痛の連続ということを知り、今更に私の甘い樂觀論も一ぺんにくつがえされてしまつた。

今は亡き彼を思い起し、友人として尽すべきことを尽し得たかと慚愧にたえない。墓目先輩、寺田君、その他在阪の諸兄に深く感謝の意を表するとともに、今後ともよろしく願ひ上げます。また、微力ながら、御遺族の将来のために私もできるだけの力になつてあげたいと願つております。十二月三十一日夜

追記 昭和三十八年は是非故人を偲ぶ会でも催したい。皆川君の命日に集り故人の霊を慰めたい、その節はよろしく。

都心で安心して泊れる女性だけの旅館

日本交通公社協定

＝御宿泊料＝
一般ご婦人 1泊2食 1,300円均一
団体30名以上ご予算によりご相談に応じます
尚女子学生の修学旅行を歓迎します

＝施設＝
・鉄筋地下1階地上5階約600坪
・1階食堂、ロビー、2階以上客室26(24帖)
・高校生 200名、一般 110名

東京・芝公園内 冷暖房完備
(旧紅葉館)

宝塚女子旅行会館

支配人 矢野正郎(昭12)

TEL (431) 6 1 1 1 (代)

製紙から印刷まで

日本製紙印刷工業株式会社

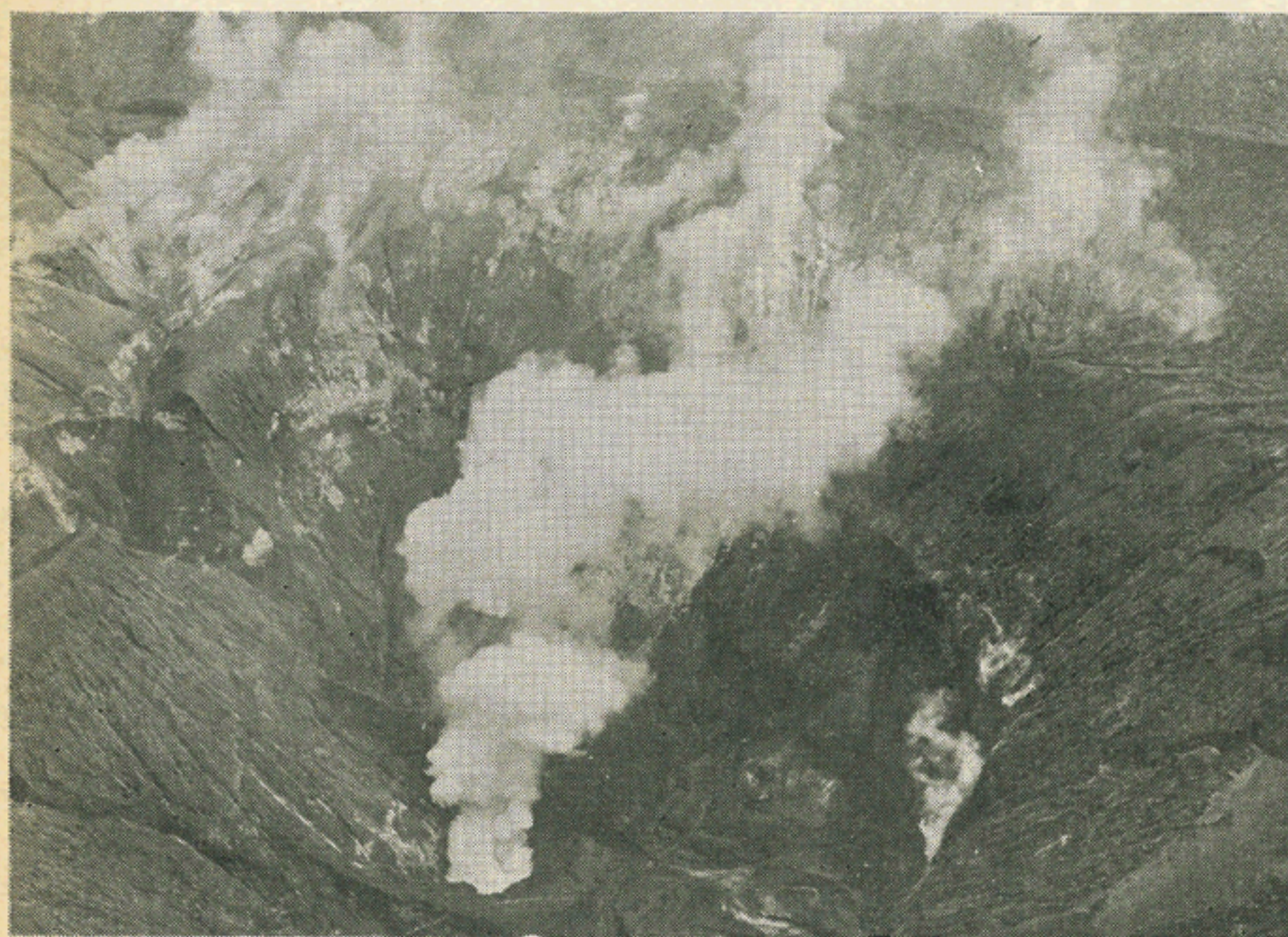
西支社

営業課長 内藤好生(昭12)

吹田市垂水円山町1563 電話 大阪(381) 5665~6
(本社) 福岡 (工場) 吹田・高槻・福岡・三池

熊本を案内する

立石市郎 (昭一二)



阿蘇をあげる煙

別府九重阿蘇熊本天草雲仙長崎を結ぶ九州観光の黄金ルート、九州横町道路と天草架橋の工事が東京オリピックを目標に着々と進められていく今日、その中心地熊本を観光を案内することは私共熊本在住緑丘人の光栄と致す処でありまして、かかる機会を与えて頂きました墓目先輩に厚く御礼申し上げます次第です。よく熊本県を火の国と申します。その火は阿蘇の火とも不知火の火とも言われますが、いずれにしても熊本県の象徴としては阿蘇の火の方がよりふさわしいように思われます。熊本県は阿蘇の神話に始まり、観光文化のいづれの面にも阿蘇を中心として発展しその間加藤清正細川普代藩主のことも、また阿蘇の雄大さとともに語り伝えられております。したがって熊本の観光案内もまた阿蘇より始めたいと存じます。

一、阿蘇

「山鳴りに 馴れては月の白き夜も安らかに眠る肥のくにのひと」
(牧水)

阿蘇は根子岳、高岳、中岳、杵島岳、烏帽子岳の五とこれを取巻く阿蘇外輪山よりなり、太古の人が霊山と唱え隣邦中国でも寿安鎮国山と唱えたように、世界中の観光客が驚くほど雄大な山で、豊肥線阿蘇観より私の会社産交バスと産交ロープウェイで登る意外の眺望は横光利一をしてチロルの高原美以上と驚嘆させたほどです。

また噴火口の景観は永久に旅人の脳裏に残るものと思えます。

二、熊本城

「光悦が 金を塗ったる箔と見ゆ 銀杏めでたき熊本之城」

(与謝野昌子)
加藤清正築城当時の大天守閣も復元致しまして名古屋城、大阪城と共に日本三名城の名を誇っています。

三、水前寺
「湧くからに流るるからに春の水」
(漱石)

熊本市内水前寺公園は細川家の茶室の庭として清冽な湧水と築山の美は古く落ちついたものです。

四、本妙寺

「永き日や 太鼓うつ手の ゆるむなり」
(漱石)
加藤清正の墓所として有名な霊地です。

五、山鹿燈籠

熊本市に加藤清正の昔より伝わる「ぼしたまつり」という荒い祭りがありますが、八月十六日の山鹿市の燈籠祭は織さいな祭でありまして、紙と糊と絵具だけで作った燈籠で一切の木も釘も使わない見事な民芸品に飾られたこの祭はまた印象深いものであります。

六、八代、人吉、水俣、球磨川下り

熊本県の南、球磨川の碧い流れが不知火海に注ぐ処に八代市があり、日本セメント、十條製紙、三樂、興国人絹、東洋繊維等の工場で有名です。八代より球磨川の上流の地に京都人吉市があります。球磨川下りで有名なこの地は犬童球溪故郷にふさわしい静かな処です。
新日窒水俣工場で有名な水俣市は熊本県の最南端にあり最近の新聞で

御承知の通りです。

七、不知火

八朔の早朝、有明海に沿った宇土郡松合町の沖に点滅する光景は、まさに神秘的なもので、水平線のかなたに一直線に浮ぶ橙色の火は、不知火の名の通り、いまだにその原因が判らないといわれています。

八、天草

東は不知火海に、西は天草灘に接し風光明媚、切支丹の遺蹟と共に旅人にとっては詩の島、夢の島であり人情味にあつく、その中心は本添市富岡市中深市に代表されています。

九、熊本の温泉

北部に玉名温泉、山鹿温泉、菊池温泉があります。阿蘇に内牧、湯谷、戸下、栃木、垂玉、地獄の温泉と杖立温泉があり南には人吉温泉、水俣の湯尻温泉が有名です。

十、熊本の文学

徳富蘆花の「思ひ出の記」の妻籠の里、夏目漱石の「草枕」の那古井の里は現在の菊池市そして玉名郡小天のことであり、また夏目漱石の「二百十日」は阿蘇に取材されています。

その他、夏目漱石の旧居蹟、小泉八雲、厨川白村の旧居蹟、



ASO 阿蘇観光ホテル

森鷗外の「阿部一族」も熊本市に取材されていますし、内村鑑三、海老名弾正、寺田寅彦等、熊本の文化遺跡は数多いものがあります。

十一、熊本の民芸品

人形の木葉簍は逸品で、是非お目にかけてほしいものです。人吉の雉子車や八代の彦一独楽等も有名であります。

民謡としては「おてもやん」「五木の子守唄」「キンキラキン」「田原坂」「東雲節」があり名産には朝鮮鮎、からし蓮根が代表品であります。国内に有名な「肥後すいき」につきましては、皆様よく御存知の通りであります。

十二、結び

以上簡単に県内観光の御紹介を申し上げましたが、その他有明不知火工業地帯の開発に伴い、有明製鉄の鉄鋼一貫工場の建設、熊本市を中心とした機械工業、また八代地区の工業生産の飛躍的發展等着々と発展の

一路を辿っています。

十三、同窓

この広い県内にも、流石に遠い北海道まで遊学した者はすくないのであります。菊池市の徳淵直臣氏(昭六)は実業界に活躍されており、熊本放送のラジオ編成部長岡本浩哉氏、八代日本セメントの相磯成令氏、天草郡有明町長河内典次氏(昭十二)八代市で自営しておられる岡崎新氏(昭十三)等それぞれの分野で縦横の活躍しておられます。

広告についてお願い

たどたどしく五年間続けて来た緑丘が三〇号になりました。ここまで続刊できましたのも広告スポンサーのお蔭だと感謝しております。あとまだ編集意欲をソウ失せせず続刊できますよう、年間契約のお申出ありますことをお待ちしております。

価格(一回)

四分一段 一五〇×五〇

二分一段 一〇〇×一〇〇

裏表紙 全紙面 六、〇〇〇円

一、二、〇〇〇円

但し年間契約の向きはご相談に応じます。

和田製糖株式会社

取締役社長 和田久義
常務取締役 松ヶ野寿夫(昭13年)

東京都中央区日本橋蛸薬町1-2 TEL 74005

緑丘人の
家庭に贈る



世界の味



全国デパートで発売中

料理罐詰

- ロシア風 ボルシチ
- イタリア風 ミートソース
- ハンガリー風 ビーフシチュー
- 印度風 ビーフカレー
- 英国風 トマトスープ
- アメリカ風 コーンスープ
- オランダ風 いちごジャム
- ポルトガル風 ママレード

ひとこと

家庭に居ながらにして、「舌の世界漫遊」をしようというのが、これの狙いです。
このメーカーの水垣さん(MCC食品社社長)は舌の達人で世界各国味の行脚をしてその結果の所産です。とも角食べてごらん下さい、きっとマニヤになります。

川島 四郎
農博(栄養と食糧の研究者)

エム・シー・シー食品株式会社

神戸市長田区荻藻通5丁目15 TEL代(67) 1245

取締役社長 水垣敏正(昭5)

お詫び

小樽特集号の「小樽に見る明治の洋風建築」一六頁、一七頁の写真BとCが入れ替っております。お詫び申し上げます。

お詫びのお詫び

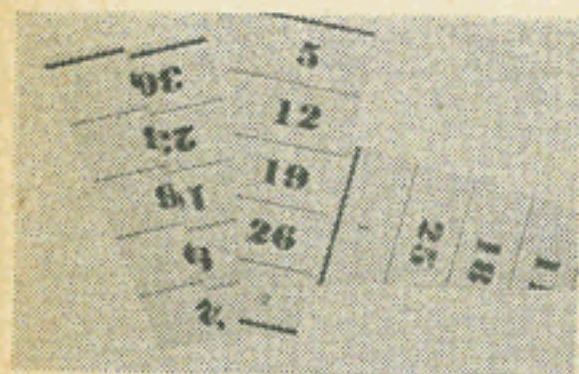
- Watanabe the Great
- Ban the Good
- Tomabechi the Able
- Ono the Gentle
- Kamo the Efficient

これが正しいのでございます。ここに謹んで訂正いたし、小林象三先生ならびに諸先生に御詫び申し上げます。

編集後記

☆お詫びをするほど馬鹿なことはい。自分の好きな読書の時間も絵を描く時間も家庭生活までも犠牲にして緑丘の編集に身をすりへらした挙句、お詫びとくる。それ以前に叱られるのだから世話はない。然し御投稿をお願いして置きながら間違えなどもっての外である。立場を代えて自分の原稿が全然意味の取り違えた文章になったらそれこそ憤慨したくもなる。何れにせよ誤りを犯したことは誠に申し訳ない次第だ、誤字が

多いので何時も反省の連続である。この号こそは間違いはないと思っ出版するのだが。唯一つ方法があるような気がする。それは校正係の応援をたのむことだ。名乗りを挙げてくれまいか。学生時代の緑丘新聞を手がけた連中の中から。
☆この「緑丘」も三〇号を迎えました。三十七年度も終り、いよいよ三十八年度に入ります。四月中に御申込みを願います。今回は三十七年度に御送金のなかった方へも御届けしました。振替用紙を御使い下さい。何部印刷したらよいのか早く決めたものです。夏頃になって御送金いただきますとバックナンバー品切れになり御迷惑をかけますから。
☆伴房次郎先生の書翰と追憶も編集にかかります。編集中でも憶い出の記を受けつけますから、すぐ御送り下さい。
☆広島に支部が結成される気運に向いてると聞いております。各支部からの支部便りを御寄稿下さい。



KYC

- KYC ベルトコンベヤー各種
- KYC コンクリート・ミキサー各種
- KYC スラッター・コンベヤー各種
- KYC モーター・プーリー各種
- KYC ポンプ各種
- KYC バッチャープラント各種

光洋機械工業株式会社

取締役社長 奥村正美(昭17年)

- | | | |
|--------|---------------------|------------------------|
| 本社 | 大阪市北区南同心町一丁目二番地 | 電話大阪(351)3091~5(代表) |
| 大阪支店 | 大阪市北区南同心町一丁目二番地 | 電話大阪(351)3091~5・8291~5 |
| 東京支店 | 東京都千代田区神田小川町二丁目三番地 | 電話東京(291)1216・1309 |
| 九州営業所 | 福岡市中浜口町一九番地 | 電話福岡(3)1841・2421 |
| 名古屋出張所 | 名古屋市東区堅代官町一四番地 | 電話名古屋(94)1315 |
| 仙台出張所 | 仙台市北材木町三九番地 | 電話仙台(22)5247 |
| 札幌出張所 | 札幌市南十一条西八丁目五四の一の二番地 | 電話札幌(5)9868 |
| 工場 | 寝屋川・守口・吹田・東京所沢 | |